



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第40号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合; Digital Repository Federation
Description	事務局: 北海道大学附属図書館 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
Issue Date	2013-05-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73591
Type	journal
File Information	DRFmonthly_40.pdf





月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第40号

No. 40 May, 2013

【特集1】 平成25年度体制

【特集2】 あなたの機関は準備OK? junii2 バージョンアップ!

特集1 平成25年度体制

企画WG新主査・副査紹介

就任挨拶

企画ワーキンググループの主査、副主査が一新しました!

退任挨拶



主査の
三隅健一（北海道大学）
です。

これまでDRFの活動に関わってきて、あちこちのリポジトリ担当者の方と一緒に活動する機会をいただきました。時には大変な課題もありますが、様々な方と力を合わせて活動できるのは楽しいです。これからも、多くのリポジトリ担当者が参加できるDRFの活動を、一緒につくっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



昨年度主査の杉田茂樹（千葉大学）です。フレッシュな新主査・副査に大期待です！オープンアクセス（OA）ジャーナルとの向き合い方をはじめOAは図書館全体の課題です。この春から機関リポジトリの担当を離れましたが、引き続きDRF運営委員としてOAの動向に目を配っていききたいと思います。



昨年度副査の内島秀樹（筑波大学）です。昨年、金沢大学から筑波大学に異動後、企画WG副査となりましたが、あまり仕事ができず、若い方にご迷惑をおかけしたと思います。今後は、CSI終了後の日本のリポジトリ活動を継続していくという大きな課題があるので、その面で色々とお手伝いしていきたいと考えています。

副査の阿部潤也（東京歯科大学）です。

いつでも激動な学術情報流通の世界。これからどのように変化していくのかを、業界の最前線で感じられるのがDRFです。新しいことを始める時、いつでも、誰でも初めてですし、手探りです。ですが！私達が声に出したことがこれからのスタンダードになることもあり得ます。そんな経験をみなさんと共有できたら何よりです。

副査の西園由依（鹿児島大学）です。

国内外のOAやリポジトリに関わる方々から常日頃いただいているパワーを糧にしながら、精一杯務めたいと思います、どうぞよろしくお願いいたします。みなさんお一人お一人の活動が変化をもたらす力を持っています。小さなことも大きなことも、知見や経験、課題を共有しながら、ご一緒に前進していきましよう。



昨年度副査の鈴木雅子（旭川医科大学）です。お世話になりました。企画WGがすっかり若返って嬉しかったです。機関リポジトリをいつも楽しくさらに楽しく！これからもよろしくお願いいたします。

2013年3月28日に、国立情報学研究所(NII)のメタデータフォーマットjunii2が改訂され、バージョン3.0になりました。学位規則の改正に基づき博士論文の電子ファイルを機関リポジトリで公表して国立国会図書館に自動収集してもらうため、機関リポジトリでこのjunii2バージョン3.0に対応する必要があります。各大学で何をしないといけないか、確認しておきましょう。

その1 リポジトリのメタデータに要素を追加

右の改訂項目のうち、著者版フラグ以外は新設されました。これらの項目をこれまで入力していない場合は、それぞれのフィールドを追加します。

その2 追加した要素の入力画面をつくる

各項目を入力できるよう、入力画面に入力欄を追加します。著者版フラグについては、“ETD”という値を入力できるようにしましょう。

その3 Junii2のクロスワークを改修

ここまできたらもう少し。リポジトリのメタデータをOAI-PMHで出力できるように、junii2のクロスワークを改修します。XMLスキーマも junii2.xsdからjunii2-3-0.xsdに変わるので、そこも修正しましょう。

junii2 バージョン3.0 改訂項目(博士論文に関するもの)

要素名	フィールド名	書式
学位授与番号	grantid	機関番号[科研費]+ [甲>A 乙>B 他>Z] + 報告番号
学位授与年月日	dateofgranted	YYYY-MM-DD
学位名	degreename	“博士(理学)”など、文字列で記述
学位授与機関	grantor	学位を授与した機関名。 特に記入ルールは示されていないが、機関内で統一されている必要がある。
著者版フラグ	textversion	博士論文の全文電子ファイルを含む場合は、“ETD”を記入

XMLスキーマは junii2-3-0.xsd



例えば、次のような点を、各機関でよくよく考えんといかんのう。

- ① 学位授与番号に含まれる機関番号や学位授与機関名を、論文ごとにメタデータにもつか？クロスワークに書きこんで一律で出力するか？
 - ② 授与番号の「甲乙他」は「ABZ」にそれぞれ変換する必要があるということじゃが、それもどうするか。クロスワークで変換するか？入力からABZに変換するか？
 - ③ 学位名のところも、「博士」と「(理学)」等の分野名を別のデータとして持つのか？「博士(理学)」と続けたデータとするか？
- システム面を業者さんにお任せにしている大学でも、知っておいて損はないぞい。

※ junii2 バージョン3.0 への対応は、以下の国立情報学研究所のサイトや、同サイトに掲載されている「junii2 ガイドライン バージョン 3.0」を参照して行ってください。<http://www.nii.ac.jp/irp/archive/system/junii2.html>
 ※ junii2 バージョン3.0 には、本記事でご紹介した博士論文に関する要素の他、JaLC DOI, NAID, 医中誌IDなどが追加されています。

TOPICS JSTがオープンアクセスに関する方針を発表

公的資金による研究成果のオープンアクセス化が世界的に進んでいます。日本でも、2013年4月、科学技術振興機構(JST)が「オープンアクセスに関するJSTの方針」を発表し、「JSTの研究費で推進される研究課題において得られた学術論文等の研究成果について、オープンアクセス化を推進」していくことを宣言しました。

http://www.jst.go.jp/pr/intro/pdf/policy_openaccess.pdf

具体的な方法としては、「国の施策として進められている機関リポジトリを基盤として活用」し、リポジトリでの公開を第一に挙げています。出版者からの許諾を得たり機関リポジトリに提出するにあたっての、研究者の負担が軽減されるための方策も講じていくとのことで、今後の展開が注目されます。

なお、公開に際しては、ジャーナル刊行後1年程度の一定期間を置くことを認め、著者最終稿を公開対象の主力として挙げる等、出版者側への配慮もうかがえます。

機関リポジトリ利用のほか、「研究者がオープンアクセ

機関リポジトリに寄せられる期待とその果たす役割がますます大きくなってきているようじゃな



スを前提とした出版物に論文を発表」することによる研究成果のオープンアクセス化も認めています。JSTは電子ジャーナルプラットフォームJ-STAGEを運営していますが、ここでのオープンアクセスジャーナルの利用が予想されます。

セルフアーカイブ(グリーンOA)とオープンアクセス出版(ゴールドOA)を両輪として、JSTの研究資金による研究成果が全体としてできるだけ速やかにオープンアクセス化することが目指されています。

次号予告

特集1: 平成25年度体制 第2弾
 特集2: 新規参加館紹介 (ほか)

編集後記

あっという間に5月になりました。今号は初の試み、ミニバージョンでお届けします。(由雅)



月刊 DRF 読者アンケート受付中!
http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf_inq.html



Facebook やってます。
<http://www.facebook.com/DigitalRepositoryFederation>

月刊DRFでは、みなさまからのお便りをお待ちしています。 gekkandrf@gmail.com

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf/>

月刊DRF第40号 平成25年5月1日発行 デジタルリポジトリ連合